

安全・安心のための COVID-19 感染防御対応機器開発プロジェクト 2020 に係る企業支援の要請

背景

2020年2月以降、世界的流行に至った新型コロナウイルス感染症（COVID-19）においては、多くの感染者、死亡者がでました。この間の医療機関の個人防護具不足は深刻で、医療現場に従事する医療スタッフの不安と負担は極限に達しました。現在、感染症は流行鈍化し、非常事態宣言の解除地域も広がっていますが、今後も流行再燃に備えた新たな準備が必要です。トヨタ自動車九州株式会社と北九州市立八幡病院感染対策研修センターは、今年4月に、安全・安心のための COVID-19 感染防御対応機器開発プロジェクトを立ち上げ、新型コロナウイルスの飛沫感染防止対策の一環として、様々な感染防御対応機器の設計開発に努めています。今後はこれら機器の地域普及においては、製造支援をして頂ける企業の応援が必要です。本プロジェクトは、感染防御対応機器開発における設計・試作工程へのリーダーシップが目的です。開発機器の継続的な地域普及においては、プロジェクトに参加頂ける企業の費用対効果に資する支援態勢が必須です。本プロジェクトの趣旨に賛同して頂ける企業のご参加をお待ちしています。

現状の成果

1. スプラッシュプロテクションシールドの開発

トヨタ自動車九州株式会社と北九州市立八幡病院感染対策研修センターは、新型コロナウイルスの飛沫感染対策防止の一環として、スプラッシュプロテクションシールドを共同で開発製造しました（説明スライド資料参照）。新型コロナウイルスのエアゾル対策には、部屋の換気やN95マスク着用が必要ですが、おもな感染経路である飛沫感染対策としては、この大きさのボディシールドがあれば、フェイスシールドやガウンの着用は不要です。また、N95マスク表面のウイルス汚染防止も可能であるため、N95マスクの頻回利用が可能です。

スプラッシュプロテクションシールドは、多数の発熱患者に対応している地域の急患センターにおける飛沫感染リスクの軽減、あるいは一般診療所においてかかりつけ患者の対面診療を行う際のN95マスクやガウン、フェイスシールド等の個人防護具不足を補うことが十分可能です。

コロナウイルスによる飛沫感染の危険性から、一般診療所等での発熱患者対応が敬遠されがちな状況下において、救急病院の発熱患者等診療の負担が増加しています。スプラッシュプロテクションシールドが一般診療所へ提供されることで、クリニックスタッフの安全・安心な診療環境の改善が期待でき、救急病院の負担軽減に繋がると考えています。

地域の診療所等への普及においては、製造にご協力頂ける企業の応援が必要です。本プロジェクトに協力頂ける企業にご参加頂き、感染防御対策の強化により、安心・安全の一次救急医療体制が再構築されることを望まれます。トヨタ自動車九州は設計図の無償提供を行いますので、ご支援頂ける企業の方はご連絡ください。

2, 日本人の体型に合わせたバリアボックスの開発

新型コロナウイルス感染症においては、病院における重症患者の気道確保或いは病院前救急医療活動における救急隊の現場活動での飛沫曝露のリスク軽減が重要です。本プロジェクトでは、病院内救命処置、病院前救急救命処置の飛沫感染防止対策の一環として、ER、消防救急車内のストレッチャーにおいても対応可能なバリアボックスを開発しています。今後は、全国のCOVID-19の重症患者の診療現場で使用して頂くためには、製造にご協力頂ける企業の応援が必要です。トヨタ自動車九州は設計図の無償提供を行いますので、ご支援頂ける企業の方はご連絡ください。

2020年5月

安全・安心のためのCOVID-19感染防御対応機器開発プロジェクト 2020

発起人代表 北九州市立八幡病院 院長・感染対策研修センター長 伊藤重彦
トヨタ自動車九州株式会社 代表取締役社長 永田 理

連絡先 プロジェクト事務局

北九州市立八幡病院 感染対策研修センター 事務担当 小田、池田

〒805-8534 北九州市八幡東区尾倉2丁目6番2号

TEL : 093-662-6565、FAX : 093-662-1796